

和泉市教育委員会定例会議 「学校正答率公表やめよ」の 請願を採択せず

和泉市の子どもと教育を守る会が、11月6日(木)の「平成26年和泉市教育委員会第11回定例会」に提出した「(学調)調査結果公表方法の再検討を求める請願書」は、残念ながら採択されませんでした。

正式な回答は届いていませんが、傍聴者の情報によれば、市教委事務局は「領域別正答率公表は平均正答率公表にあたらない。」と強弁。請願書には「小中8教科(区分)中5教科(区分)で、領域別正答率から平均正答率が算出可能」との詳細な資料も添付しましたが、採択されませんでした。



1. 学テの本質
(1) 安倍首相のねらい
・安倍首相は、その著書「美しい国へ」で、「全国的な学力調査を実施、その結果を公表するようにするべきではないか。学力調査の

大阪府教委が各地教委や学校に「学力テスト」対策を押しつけ、和泉市教委が「学力テスト」の学校別正答率の公表を学校に強制しているなかで、泉北教組が事務局をつとめる「和泉市の子どもと

教育を守る会」では市民学習会を開催しました。

講師の山口隆さんのお話「学力テストで学力は向上するのか」の内容をダイジェストでお知らせします。【連載①】

民
習
会
市
学
習
会

学テの「点取り競争」

で学力向上は望めない①

結果が悪い学校には支援措置を講じ、それでも改善が見られない場合には、教員の入れ替えなどを強制的におこなう。」と述べていました。

・つまり、全員参加型の学力テストで競争を強めるとともに、その結果を公表して子どもと学校のランク付けをおこなない、これに「学校選択の自由」を全国に押しひろげて組み合わせる「勝ち組」学校、子どもの集まらない「負け組」学校を政策的につくりだす。

・しかも、これを教育



予算削減と一体に、「教育バウチャー制度」を入れ込んで、「勝ち組」学校には多くの予算、「負け組」学校には少ない予算という、差別的配分をおこなうことも考えており、結局「負け組」学校は廃校にするというねらいをもっています。

・「全国いっせい学力テスト」は学力向上のためではありません。

・弱肉強食をそのもつとも大きな特徴とする経済政策である新自由主義を教育にそのままもちこみ、教育への公的な財政支出を抑制し、教育リストラと一体に、一部のエリートづくりをねらうものです。

(2) もっと露骨な人
・04年、中山成彬文部科学大臣(当時)は、「子どものころから競

い合い、お互いに切磋琢磨するといった意識を涵養する(ために) : 全国学力テストを実施する」と述べました。

・大阪の橋下知事(当時)は、08年大阪府の学テ平均点が2年連続で全国平均を下回ったことに対し「何だ! このざまは」と教育委員会に罵声をあびせ、府教委は「目的のために手段を選ばない」「プロなら言い訳をするな。結果を出せ」と校長を叱りつけました。

・ここからわかるように、学テの目的は、子どもたちを競争させること、「点取り競争」そのものにあって、学力向上ではありません。

(3) 学テと呼ぶが
・「全国学力・学習状況調査」は、行政(文部科学省)がおこなう



「行政調査」です。「調査」ですから、子どもたち全員を参加させる必要はありません。また、「調査」なので、すから、それに「対策」を立てることなど、普通ありえません。

・「調査」であるにもかかわらず、「対策」を立てよということがおこなわれているのは、学テだけです。

・なぜ、そうなるのか。学力テストの結果が、あたかも学力のすべてであるかのように描き出し、子どもたちを全員参加させることで、競争をおおるというやり方が政策的にすすめられているのです。

組合に加入して、「教育基本条例」「評価・育成システム」をなくそう!